

自然と人がとけあう 活力あふれるまち なかがわ

～「ずーっと住みたい」まちを目指して～

1. これまでの那珂川町

第4次総合計画では、将来像として「水と緑、暮らしがとけあうまち なかがわ」を掲げ、まちづくりに取り組んできました。これは、従来の開発中心のまちづくりが曲がり角に来たことをうけて、町の資源である「水と緑」を大切にしながら個性豊かな生活環境をつくっていくこととあわせて、人と人との新たな「つながり」を生み出すことを強く意識して設定されたものでした。

2. これからの那珂川町

住民アンケートの結果では、福祉や子育ての環境に関する利便性や快適性を求める声が高くなっています。以前は、「上下水道や道路の整備」といったインフラ面での利便性が多く求められていましたが、インフラ面の整備が進んできたことによって、求められる利便性が変化していると言えます。しかしながら一方で、町の「住みごち」については以前と変わらないと感じている人が多いようです。

町の環境一般に関する満足度では、那珂川をはじめとする「自然」について高い満足度を維持しています。町を思い浮かべる際に自然なくして語ることはできません。第4次総合計画以前から町民憲章（昭和57年制定）、第3次総合計画（平成3年度～平成12年度）でも将来の目指す姿として、自然を大切にすることをまちづくりの1つの基本としてきました。今回のアンケート結果でも「自然は町の資産」であるという考えが強くなっています。

全国的に人口の減少、少子高齢化が進む中で、那珂川町における高齢化率はまだ他の自治体と比べると低い水準にあり、また出生率は高く、若年者の割合が高いのが現状です。しかしながら、那珂川町でも少子高齢化の進行、単身者世帯や核家族の増加などによって社会環境が変化してきています。そのような社会環境の変化の中で、住みごちのよさをさらに向上することによって、「ずーっと住みたい」あるいは「戻ってきたい」と誰もが思えるようなまちづくりが必要だと思えます。

3. 「ずーっと住みたい」まちを目指して

「ずーっと住みたい」まちの実現に向けて、私たちは町の将来像を「自然と人がとけあう 活力あふれるまち なかがわ」という言葉に託します。

(1)自然

今まで受け継がれてきた町の自然は、「町の資産」であるのと同時に私たちが癒しや恵みを享受することのできる大切なものであり、これから先も守っていかねばならない大切なものだと思います。

(2)人

町の主役はもちろん「人」です。また、まちづくりを動かしていくのも「人」です。

私たちは、受け継がれてきた自然の中で子どもたちを育成すること、あるいはまちづくりのために活動する人材を発掘・育成することや、世代を超えた学びの場を提供することなどによって、子どもから高齢者まで誰もが生きがいを持って暮らせる元気な町を目指したいと思います。

(3)とけあう

「とけあう」という言葉に、私たちは2つの意味を込めたいと思います。

1つ目は「自然と人」です。

自然を守り、残すことは必要です。しかしながら、単に自然が残っているだけでは私たちは生きていくことができません。私たちは自然を「調和・共生できる」「町の資産」としてゆくことを求めています。私たちの暮らしの中で自然を破壊することなく、第4次総合計画で目標としてきた、自然と人が「とけあう」ことを継続していくことが不可欠だと思います。

2つ目は「人と人」です。

近年、地球規模で温暖化が進行し、このことが原因とみられる局地的な集中豪雨による災害が多発しています。町が災害から学んだことの1つが、災害発生時は、行政はもちろん地域の人々の支えあいが大切であるということです。人々が支えあうしくみは、災害や犯罪などから安全で安心できる環境を守るためだけに留まらず、町の行政を推進していくうえでも大切なことだと思います。

人と人とのふれあい・支えあいの場を増加させるような、人と人が「とけあう」しくみづくりが必要だと思います。

(4)活力あふれる

高齢化の進行に伴って、今後は自分の居住する地域で活躍する高齢者が増えることが予想されます。また、多くの若年者は那珂川町で子どもを産み、育てています。そうしたことをふまえ、インフラ面だけにとらわれない福祉サービスや子育てをしやすい環境、地域のネットワークなどの暮らしの基盤を維持・向上することによって、高齢者、子育てをする人々、障がいをもつ人々などの社会的支援を必要とする人々をはじめ誰もが生き活きとした活力のある町を目指したいと思います。